

今年の干支は「ひつじ」

JJ1SXA 池

干支と言うのは、十干と十二支とを組み合わせた言葉ですから、干支は未(ひつじ)というのは、正確に言うと一寸違っているようです。

ご存知のとおり、十干は、甲・乙・丙…癸(きのえ・きのと・ひのえ…みずのと)で、十二支は、子・丑・寅…亥(ね・うし・とら…い)ですね。

本来は「甲(こう)・乙(おつ)・丙(へい)・丁(てい)・戊(ぼ)・己(き)・庚(こう)・辛(しん)・壬(じん)・癸(き)」及び、「子(し)・丑(ちゆう)・寅(いん)・卯(ぼう)・辰(しん)・巳(し)・午(ご)・未(び)・申(しん)・酉(ゆう)・戌(じゆう)・亥(がい)」で、この十干と十二支の組み合わせは、60通り、**60**歳が還暦の由縁です。

又、この干支は、年月・時刻・方位などを表す呼称として使われています、京都市右京区に、西院坤町という所がありますが、この坤町の「坤」は、ヒツジサルと読み、未・申の意味だそうです、この「坤」の方角は、南西の方角で、多分、坤町は京の都の中心地から南西の方角にあるのだと思います。

ちなみに、「たつみ＝巽または辰巳」の方角は東南で、「いぬい＝乾または戌亥」の方角は北西の方角のようです。

「乾坤一擲」(けんこんいってき)という言葉もあり、「さいころを投げて、天が出るか地が出るかを賭ける」あるいは、「運命を賭けて大きな勝負をすること」と言うような意味のようですが、この乾坤は、天と地とか陰と陽を表し、方角の意味も含まれるようです。

時計は何故12進法なのか、子供の頃は不思議に思いつつ、そんな事は当たり前になってしまいましたが、12進法の時刻を十二支で表せば簡単ですね。

午(うま)の刻は、お昼の12時、その前は午前、後は午後、うまく使っています。

午前0時は、子(ね)の刻、午前2時は丑(うし)の刻ですから、「草木も眠る丑満時」は、さしずめ、午前4時の寅(とら)の刻に変わる少し前の時間帯でしょうか。

未を含め、十二支の漢字が動物に関連付けられたのは、紀元前3世紀の頃らしいのですが、羊という動物は、おとなしくて臆病で、放牧の家畜の羊は、狼などが現れると、散り散りになって逃げ惑い、本来の野生の性質で、斜面を上へ上へと進み、風があると、どんどん風上へ進むそうで、そのため、羊飼(牧夫)がちゃんと導いてやらないと帰って来られないそうです。

キリスト教世界で、「迷える子羊である人間」を教え導く人を「牧師」というのは、ここから来ているそうですが、私も、「迷える子羊？である人間」です、皆さん「牧師」となるとご指導、ご教授よろしくお願ひ致します。